

第 27 回 BC 州日本語弁論大会  
2015 年 3 月 7 日 (土)  
優秀作品集

BC 州日本語弁論大会実行委員会

この作品集は、参加者の原稿を元に BC 州日本語弁論大会実行委員会が編集したものである。

## 第 27 回 B C 州 日本語 弁論大会

日時：2015 年 3 月 7 日 土曜日 午前 10 時 00 分

場所：University of British Columbia

コーディネーター：Noriko Omae (SFU/サイモンフレーザー大学)

Rebecca Chau (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)

Ihhwa Kim (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)

司会者：Julien Combes and Pag Yang

審査員：Tomoko Bailey (JALTA)

Kayo Kang (R.A. McMath Secondary)

Ritsu Muratake (H.I.S)

Margaret Ritchie (Sentinel Secondary and West Vancouver Secondary)

Yasuyo Sawada (Kiyukai)

Akemi Takizawa (Killarney Secondary)

Sharalyn Orbaugh (UBC)

Fumiko Watai (UBC)

Sumiko Nishizawa (Kwantlen Polytechnic University)

Kazuko Mito (Capilano University)

Nobuyuki Naito (Mitsui Canada)

Jun Morita (Konwakai)

Seiji Okada (Consul General of Japan in Vancouver)

出場者：

### 【高校 初級】

- |                 |                |                                  |
|-----------------|----------------|----------------------------------|
| 1. Wendy Hu     | 精神病への偏見        | The Stigma of Mental Illness     |
| 2. Patrick Kao  | 自分の道           | My Path                          |
| 3. Brady Li     | 時の流れの中で        | In the Flow of Time              |
| 4. Albert Lu    | クリスマスファン       | Christmas Fund                   |
| 5. Nelly Wei    | デジタル世代         | Digital Generation               |
| 6. Jennifer Zhu | 日本語の中の翻訳できない単語 | Untranslatable Words in Japanese |

### 【高校 中級】

- |                       |           |  |
|-----------------------|-----------|--|
| 1. Jaysang Ahn        | おもてなし文化   | Japanese Hospitality                   |
| 2. Jerry Fang         | お宅の価値     | Value of Otakus                        |
| 3. Yipeng(Susan) Zhao | 汝自身を知れ    | Know Thyself                           |
| 4. Chris Zhu          | 魚より、釣り方を！ | Teach Fishing, Instead of Giving Fish! |

【高校 オープン】

- |                    |                     |  |
|--------------------|---------------------|--|
| 1. Seonghyeon Kim  | スーツケース              | Suitcase                                 |
| 2. Yoshi Matsubara | かけがえのないもの           | Irreplaceable                            |
| 3. Louis Oka       | 日本人の両親から生まれたカナダ人のぼく | I Am a Canadian, Born from Issei Parents |
| 4. Rain (Yu) Zhao  | 成長するという事            | About Growth                             |

【大学・一般 初級】

- |                          |                       |  |
|--------------------------|-----------------------|--|
| 1. Tianye Guo            | 伝統と現代社会               | The Mix of Traditions and Modern Society |
| 2. Jadon Kain            | いつもの風景                | Everyday Scenery                         |
| 3. Jackson Li            | 母へのメッセージ              | The Message to My Mother                 |
| 4. Grace (Yi Hsiu) Lu    | 私の英語の勉強と声優            | My English Studying and Voice Actor      |
| 5. Thomas Pride          | 恥ずかしい日本語              | Embarrassing Japanese                    |
| 6. Kim Tran              | ゴールをたすけるサポート          | Support to Reach a Goal                  |
| 7. Pichada Wangsangthong | 私は自分のことをかんがえなければいけません | You Must Think about Yourself            |

【大学・一般 中級】

- |                     |                |                                 |
|---------------------|----------------|---------------------------------|
| 1. Yeji Ahn         | 誰にも届かない鳴き声     | The Sorrow that No One can Hear |
| 2. Jessica Guan     | 母の本音           | My Mother's Real Wish           |
| 3. Yeeun Elaine Ham | 死に直面する方法       | How to Confront Death           |
| 4. Surin Irene Jung | 100 個の単語の力     | Power of 100 Words              |
| 5. Jaeyong Kim      | 私の知っている成功方法    | For Successful Life             |
| 6. Linus Kuo        | 人生を変える夢        | The Dream that Change Your Life |
| 7. Richard Wu       | 漢字が教えてくれた人生の教訓 | Philosophy of Life in Kanji     |
| 8. Ketty Zhang      | 一期一会           | One Time, One Meeting           |

【大学・一般 上級】

- |                  |            |                                  |
|------------------|------------|----------------------------------|
| 1. Brooklyn Jang | ちょっと足りないもの | Something Not Enough             |
| 2. Eva Qiu       | 二つの世界は、繋がる | The Two Worlds Connected         |
| 3. Qi Shen       | 理想の建築材料：木材 | An Ideal Building Material: Wood |
| 4. Jessie Yang   | 女性が輝く日本へ   | Women Shining in Japan           |

【大学・一般 オープン】

- |                   |           |   |
|-------------------|-----------|---|
| 1. Ryan Brynelson | 文化と言葉の繋がり | The Relationship Between Language and Culture |
| 2. Summer Fang    | 皇室について    | Japanese Royal Family                         |

## 入賞者

### 【高校部門】

初級部門	第1位	Brady Li	時の流れの中で
	第2位	Albert Lu	クリスマスフェンド
	第3位	Nelly Wei	デジタル世代
	特別賞	Patrick Kao	自分の道
中級	第1位	Chris Zhu	魚より、釣り方を！
	第2位	Yipeng(Susan) Zhao	汝自身を知れ
	第3位	Jaysang Ahn	おもてなし文化
オープン	第1位	Rain(Yu) Zhao	成長するという事
	第2位	Yoshi Matsubara	かけがえのないもの
	第3位	Seonghyeon Kim	スーツケース

### 【大学・一般部門】

初級	第1位	Grace(Yi Hsiu) Lu	私の英語の勉強と声優
	第2位	Jackson Li	母へのメッセージ
	第3位	Pichada Wangsangthong	私は自分のことをかんがえなければいけません
中級	第1位	Ketty Zhang	一期一会
	第2位	Jaeyong Kim	私の知っている成功方法
	第3位	Surin(Irene) Jung	100個の単語の力
	特別賞	Richard Wu	漢字が教えてくれた人生の教訓
上級	第1位	Jessie Yang	女性が輝く日本へ
	第3位	Eva Qiu	二つの世界は、繋がる
	第3位	Qi Shen	理想の建築材料：木材
オープン	第1位	Ryan Brynelson	文化と言葉の繋がり
	第2位	Summer Fang	皇室について

### 時の流れの中で

拝啓

お爺さん、お元気ですか。もう9年ですね。時間はいつも知らず知らずに過ぎます。どんなときにも前に向かって、とどまることなく、動き続けます。

あの日、学校から帰った僕は異変を感じました。母にいつもの明るい笑顔がなく、とても悲しそうに僕をひしと抱きしめました。お爺さんが心筋梗塞で、ちょっと前に亡くなったと言うのです。母と一緒に病院に行くと、お爺さんが静かに、ベッドによこたわり眠っているようでした。でも、その体に温かさはなく、またいつもの優しい笑顔もありません。そこにはもうお爺さんはいなかったのです。僕はポツンとこの世界に残された気がしました。それから数週間僕は一人でぼんやり過ごしました。

あの頃、僕は両親と兄姉とお爺さんと小さな家にすんでいました。両親と兄姉がいつも忙しかったので、大部分の時間をお爺さんと二人だけで過ごしましたね。お爺さんは僕の先生、精神的な支え、そして、何より僕の親友でした。毎日、お爺さんの隣にすわって、何でも打ち明けていましたね。お爺さんはいつもしずかにそこにすわって、じっと聴いてくれました。時折、お爺さんもいろいろな話をしてくれました。食べるのにも困った貧しい頃の話や、一時期悪い道に入っていた話、ギャングの抗争で仲のよい友人を失ったことなど、決して穏やかではなかったお爺さんの人生について語ってくれましたね。面白く聞いていた話の一つ一つは、今思うと僕に何かを伝えようとしていたのだろうと思います。

お爺さん、お爺さんを失って落ち込んでいた僕の耳に、ある日突然お爺さんの言葉が聞こえてきたんですよ。「ポーチン、わすれないで。時間は決して止まらない。どんなときもあきらめないで頑張り続けるんだ。それだけでいい。そうすれば、おまえはかならず最後に、前へと続く道を見つけれられるよ。それが、もっと大きい人間になれるってことなんだよ。」その言葉で僕はハッとしたんです。「そうだ！止まっちゃいけない。動き出さなきゃ！」と。

お爺さんは亡くなくても、なお僕を励まし続けてくれているんですね。時の流れの中で、人はたびたび大切なものを失います。しかし、本当に大事なことは、その人が伝えたことをつかみ胸に刻むことです。それがお爺さんが僕に遺した心の遺産なんですね。

お爺さん、安心してください。僕は元気でがんばっています。

敬具

### クリスマスファンド

みなさんは、どんなボランティアをしていますか。僕はリッチモンドのクリスマスファンドでボランティアをしていました。そこでの経験が僕を大きく変えました。

2012年にカナダは25万7千515人もの移民を受け入れました。そして、その数は増え続けています。もとの国の貧困から抜け出し、よりよい経済状況を求めてカナダに移民してきた人たちもいると思います。しかし、学歴が低く、貧しい国から来た移民の多くは、カナダに来てはわずかな賃金しかもらえないのが現状です。その結果として、いろいろなことをあきらめ 生きていかなければならない家族が多くいます。リッチモンドのクリスマスファンドは、このような家族を助けるために立ち上げられたものです。上司からリッチモンドには家族にクリスマスプレゼントを買うお金がない人がいると聞いた時、正直、僕は驚きました。

ここでの僕の仕事は、おもちゃの仕分けでした。オフィスに行くと、個人や企業から寄付されたおもちゃの箱がたくさん置いてあります。その箱を開けて、女の子用、男の子用、幼稚園児用、小学生用と、それぞれ適した箱に入れていくのです。授業が終わって、毎日通いました。実はこの仕事は単にボランティアの時間が必要だったからやることに決めたのでした。ところが、このクリスマスファンドの意味を知った時から、僕の気持ちは変わりました。僕の小さな仕事がこのファンドを支え、貧しい家族を助けている。そう考えると仕事が楽しくなってきました。クリスマスの朝、プレゼントがもらえない子供が1人でも少なくなるようにと考えながら、僕は頑張りました。頑張れば頑張るほど、幸せな気分になっていく自分に気づきました。自分がいる環境がいかにも恵まれているかにも気づきました。

リッチモンドだけでなく、カナダ、世界には、まだまだ助けてあげなくてはならない人々が大勢いるはずですが。クリスマスプレゼントをあげるというのは、ほんの小さな例ですが、ほかにも、もっともっと改善していかなければならないことがあると思います。僕はこのボランティアの経験を生かして、将来、僕の人生の一部を、人を助けることに使いたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。

## デジタル世代

2人の人が向かい合って座っています。相手を見ているでしょうか。それとも携帯のスクリーンを見ているでしょうか。Facebook Twitter Snapchat Instagram Line WeChat。私は毎日4時間くらい、これらのソーシャルネットワーキングサービスに時間を使っています。それは起きている時間の4分の1だと気づいたときには、自分でも怖いと思いました。

顔を上げて自分の回りを見てみると、便利で、人と人とのつながりを作ってくれるはずのソーシャルネットワーキングサービスは、実は、反対の意味になるときがあると気づくと思います。携帯電話やコンピューターをオンにするとき、社交のドアをオフにしているのです。よく知らない人たちの中で個人情報をつかち合うことに抵抗がないのに、自分の身近にいる大切な人とはあまり話しません。ソーシャルネットワーキングに自分の一番かっこいいところを見せても、本当の気持ちには触れません。いつも目に見えない友だちが目の前にいるから、実は自分が孤独であることにも気づきません。他の人に好まれるように話を作り上げ、完璧な人生を演じます。でも真実はそうじゃありません。私たちにとって大切な人が一番知りたいのは、私たちがほんとうはどう生きて、なにを考えているかということなのです。

私たちの世代は、とても恵まれていると思います。ほしい情報が簡単に手にはいる世代です。一方、私たちの世代はその多過ぎる情報のせいで人々を嫉妬したりされたりして、幸福感をなくす危険性がある世代でもあると思います。だれかと自分を比較し、嫉妬し、うその競争をネット上で始めることに意味があるでしょうか。女性はフォトショップを使って自分の顔さえ変えてしまいます。うその世界を自分が作り上げているのに、相手もうその世界を作り上げている事に気づかず、みんなは本当に素晴らしい人生を送っていると信じてしまうのです。ですから SNS に時間を使えば使うほど、自分がどんどんみじめになっていきます。

私たちは、日ごとに携帯のスクリーンを見ている時間が長くなっています。その間、どれだけチャンスを無くしているか気づきません。助けを求めている人がいるかもしれません。あなたに話しかけたい人がいるかもしれません。そんなチャンスを無くしていると思いませんか。私自身、SNS にどっぷりですが、この日常を変えたいと思っています。みなさん、携帯から顔を上げて、この素晴らしい世界を自分の目で見渡してみませんか。

### 魚より、釣り方を！

去年上海に帰ったとき、友達から誘われて、恵まれない子供たちのサマーキャンプのボランティアをしました。友達のお母さんがある教育基金で働いていて、上海の孤児たちや海外出稼ぎ労働者の子供たちを助けているのです。

朝五時に出て、八時に着いた現地には荒涼とした風景が広がっていました。でこぼこ道の向こうで待っていたのは、六才から十才の二十人ぐらいの子供たちでした。僕たちを見るやいなやパッと笑顔を見せました。大きい子供たちとバスケットボールをした時、子供たちはどんなに負けてもへこたれず、逆にやる気さえみせてきたのには驚きました。幼稚園の子供たちが作った農民の話やお父さんに会いたいスキットの背後に、僕には想像出来ないような生活があるのだろうと胸が痛みました。ランチは珍しくもないものなのに、みんな「おいしい、おいしい」と食べながら笑顔でお礼を言ってくれました。こんなふうに二週間を過ごしました。

僕がボランティアをしたつもりでも、実際は子供たちからたくさんのことを学びました。くじけそうになっても、笑顔で困難に向き合う精神、劣悪な生活環境の中でも前向きな精神などを学びました。僕の国の未来になるこの子供たちは、なんとすばらしいのだろう！広い世界に羽ばたけるように、力を貸してあげたい！この子供たちに、まだ未熟な僕は、いったい何ができるのだろう。物質的なものも大切ですが、あげるだけでは、バンドエイドみたいな、ほんの一時の解決方法だと感じました。どうすればこの子供たちのためになるのかと、ボランティアをした友達と話し合っ、気づきました。なんと言っても、教育を受けることが重要です。物質の支援は、実は貧乏な人々の考えを変えるために使われているのです。中国は発展途上国で、まだ義務教育が浸透していません。衣食さえ不足している人たちに、教育にお金を使う余裕はないのです。だから僕たちの寄付や支援は、少しでもそういう子供たちが学校に行けるためです。こんなことわざがあります。「魚をあげることより、釣り方を教えることがもっと大切だ」と。僕の父も田舎の出身で、奨学金から、そのチャンスを生かし、村から出ることができました。今現在の物質の豊かさではなく、教育を受けて、一人一人が自分の生き方を追求できるようにするのが、僕の思う「釣り方」です。

子供たちが教育によって、自由や権利を手に入れ、自分らしく生きられるよう、少しでも役に立てるよう、今後もボランティアを続けます。そして子供たちと共に、僕の生き方、理想の釣り方も追求していこうと思います。僕たちにはどんな未来が開けるかとても楽しみです。

### 汝自身を知れ

ギリシャ語にはこういう言葉があります。英語では「Know Thyself」日本語に訳すと「汝自身を知れ」です。私は毎日この言葉を心の中で繰り返しています。どうして自分自身を知ることが大切なのか、私が経験した3つのことについて話したいと思います。

まず、ゴシップについてです。こんな経験がありました。Bさんが他人の悪口を言っているのを聞いたAさんは、Cさんのところに行って、Bさんが悪口を言ったことをCさんに教えました。そして、悪口を言う人は最低だと言いました。しかし、自分も他人の悪口を言ったことに気づいていません。どうしてAさんは自分がしていることに気がつかなかったのかと違和感を感じてしまいました。

その次の経験は英語の先生から、ギリシャ神話の「オイディプス」について習ったときのことです。オイディプスは考えずに行動する王様でした。父親を殺したり、自分の母親と結婚したり、市民の前でひどい言葉を言ったりしました。オイディプスのように自分自身を知らないことを「self-blindness」ということ、そして、「汝自身を知れ」という言葉を英語の先生から習いました。私はこの言葉にとっても感動しました。なぜなら、この言葉こそ、私が違和感を感じたゴシップ事件の答えだったからです。

この言葉を習ってすぐ、学校で弁論大会がありました。ある学生が人種差別について、とても共感できるスピーチをしました。その次の週の社会の授業でその学生と一緒にプロジェクトをすることになりました。その学生は話し合いの中で、「that Asian person」とか「that black guy」などの言葉をよく使いました。このような言葉は、素晴らしい人種差別のスピーチをした人から聞くと、矛盾しているように感じました。この時また「汝自身を知れ」を思い出しました。

自分自身を知るのはとても大切なことだと思います。私だけではなく、ここに座っている皆さんにも大切だと思います。なぜなら、自分の弱いところやよい面を知っていれば、自分の行動が予測できるからです。人生は道であり、「自分」という車を楽しくドライブするには、車の機能や癖を詳しく知っておいた方がいいと思いませんか。自分自身を知るために、私は、「汝自身を知れ」をこれからも心の中で繰り返すようにしたいと思います。

## おもてなし文化

長い歴史の中で、日本は中国や韓国そして欧米諸国からいろいろな文化を受け入れ、よりよいものを作り上げることに、多大な努力と才能を發揮してきました。物や文化が日本化すると、オリジナルのものよりレベルアップすることは世界中で知られています。戦後は、車や家電などを輸出し、世界を驚かせてきました。最近では、サービス業まで世界に進出していると知りました。あるテレビ番組で、日本式サービスを海外に広め、そこで成功している例を見て、僕はとても感動しました。その文化は、こう呼ばれています。「お・も・て・な・し」

どの国にもホスピタリティーと呼ばれるものはありますが、日本のは、究極です。京都の老舗旅館のスタッフにはマニュアルはありません。スタッフ自らがおもてなし方法を考えるのです。例えば、スタッフが部屋の掃除に入った時、飲みかけのお茶碗が窓際に残っていたら、お客様はその窓際でお茶を飲みながら景色を眺めていたことが想像できます。そこでスタッフは、窓際に茶碗がおける小さなテーブルを置き、さらには、窓を開けて景色を眺めても体が冷えないようにと、そばに毛布を置くのです。すごいと思いませんか？ このように、お客様に頼まれなくても、スタッフが先回りして考え、実行するのが日本流のおもてなしなのです。それをリゾートで有名なインドネシアのバリ島のホテルで実践しているそうです。言われた事をマニュアル通りにやっていただけの現地スタッフは、日本のおもてなし文化を学び、働く意欲が出てきたと語っていました。

日本の文化を100%外国に持って行っても、うまくいかないかもしれません。現地の方が現地向けにアレンジしたり調整したりしてこそ成功するのではないのでしょうか。そうです。それは、まさに日本人が昔からそうしてきたことなのです。これからは逆です。世界が日本のおもてなし文化を学び、よりよいものに作り上げていく番です。

日本人は、昔から、自分を主張せずに相手の気持ちを考えるのが上手です。おもてなし文化の根底にもそのコンセプトがあります。僕が日本人の友だちと喧嘩をしたとき、いつも日本人が先に謝ってくれます。そうすると、僕も気持ちよく謝る事ができて、そして気まずい関係があつと言う間によくなるのです。このおもてなし文化の番組を見て、その理由がよくわかりました。小さな人間関係が、社会関係に、そして国と国との国際関係につながります。日本のおもてなし文化が世界に広がれば、世の中は、もっともっと住みやすく平和になるに違いないと僕は信じています。

## 成長すること

皆さんは成長という言葉聞いて、どう感じますか。成長は、ポジティブなことですか。それとも、成長することというのは、苦痛をともなう苦い体験でしょうか。私は今、成長することに対して、とても複雑な感情を抱えています。子供の頃に戻りたいと思う一方で、早く立派な大人になりたいという考えも持っているからです。

私は、成長は辛いと思っています。成長していくうちに大切なものを失ってしまうと思うからです。例えば、私は卒業するのが嫌いです。なぜかというと、卒業は別れを意味しているからです。何年も一緒に歩いてきた友達や先生が、別々の道に進んでしまいます。一旦別れたら再会するのは難しいし、たとえ再会できても、一緒に過ごした日々に戻ることにはできません。中学校一年生の時、小学校のクラスメイトと同窓会で会いましたが、教室についたあと、私は彼らと全然話しがはずみませんでした。同じ中学校に通っていないから、共通の話題もありません。最後、私は一人で先生のところに行って、話したあと、先に帰りました。時の流れは残酷で、みんなの間にはもうどうしようもない溝ができてしまいました。また、大きくなったらいろいろなことを考えなければなりません。例えば、「自分は将来何になるのがいいか」と考えるだけでなく、「この目的を達成するにはどんなことをしなければならぬか」も真剣に考えなければなりません。そのうえ、いい大学に入る必要があります。よい大学に入りたいなら、いい成績が必要です。それで、よく自分の成績を心配します。プレッシャーが多すぎて、ほぼ週に一回悪夢をみます。時々「成長しなかったら、現実の残酷さをわからなくてもいいよね」と思ってしまいます。成長って、辛いですね。厳しい現実より夢を見るほうが楽だと思います。

でも、成長で得るものも多いのは確かです。卒業して、友達や先生と別れましたが、すぐ新しい友達ができました。そして、人生の新しいページが開かれました。「何かを失う時は必ず何かを得る」と私は信じています。確かに別れは悲しいですが、一緒に歩いてきた日々は永遠に忘れません。「袖振り合うも他生の縁。」みんなと五年も一緒に過ごせたなんて、それでもう十分幸せだと思います。それに、昔の友達も自分のことを覚えていてくれます。あと、成長は無限の可能性も意味していると思います。「これから何が起こるかな」とか「私の努力により、どんな未来になっていくのかな」とか「きっと、また素敵な人達と出会える」と考えるだけで、ワクワクしてきます。成長することによって、自分の未来は、自分で切り開いていける。これが成長の一番の魅力だと思います。

成長はプロセスです。生まれたときから死ぬまでの修行でもあります。体の成長だけでなく、心も成長しています。人間の一生は様々な苦勞の連続です。生老病死、愛別離苦、求不得苦、五陰盛苦を経験しながら、私たちは成長していきます。成長しているうちに、楽しいことも苦しいことも起こりますが、今は素直に受け入れようと思っています。

## かけがえのないもの

僕にとって、スポーツはかけがえのないものです。小さい頃から僕はいろいろなスポーツに取り組んできました。なかでもテニスは、父のえいきょうもあってかなり小さい頃からレッスンを受けていました。初めはテニスが好きで、少しでも上手くなりたくて、毎日のように練習をして、テニス三昧の日々でした。ただテニスは、個人競技なので、勝っても負けても自分のせいになってしまうことから、いつもなんとなくコートの中で、孤独を感じていました。

そんな時友達に誘われて、僕は軽い気持ちで、バスケットボールを始めました。最初はただ、仲間と一緒にできるバスケットボールが楽しくて仕方ありませんでした。そのうちグレード5から学校のバスケットボール部が始まって、みんなと練習や試合を重ねていくうちに、僕はもっともっとバスケットが上手になりたいと思うようになりました。バスケットボールの素晴らしいところは、もし僕がミスをして他の仲間がすぐに取り返してくれるところです。仲間のミスを、僕が取り返すこともあります。これは、テニスでは味わえない感覚でした。そしてグレード7の時、僕たちはトロントの大会で接戦をものにして、優勝することができました。これは僕にとって大きな自信になりました。

セカンダリースクールに入ると、バスケットボール部は今まで以上にシリアスになりました。僕はテニスをキッパリと止めてバスケットボール中心の日々を過ごすようになりました。その年のグレード8のチーム目標は、シーズンの最後にある BC プロビンスシャルで優勝することでした。僕たちは毎日、朝も夜も必死に練習をして、地区大会を勝ち上がり、ついにその大会に出場することが決まりました。当然、僕たちは優勝候補でした。けれども、僕たちは準決勝でワルナットグローブというサーレーにある学校に 3 点差で負けてしまいました。技術的には同じくらいのレベルでしたが、僕たちはその日、ものすごく緊張していました。本来の自分たちのプレイをすることができませんでした。悔しくて、悔しくて、みんな控え室で肩を寄せあって泣きました。僕たちに足りないものは、なんだったのだろうか？その日から、僕は毎日、自分に問いました。

僕は決して背が高い方ではありません。身体も細く、特別な技術があるわけでもありません。けれども僕にはスピードとスタミナと、ボールに対する勘のようなものがあります。これはきっとテニスを長く続けていたおかげだと思います。そして何より、僕にはバスケットボールが好きだ！という気持ちがあります。

今の僕は、まだまだ一流のバスケットボール選手ではありません。ミスも多く、自分が思うようなプレイができなくて、涙を流した日もたくさんあります。けれども、僕はこれからも努力することをおしまずに、自分に高い目標を持って、バスケットボールに取り組んでいこうと思っています。チームにとっても自分にとっても満足できる選手になりたい。バスケットボールは僕にとって、かけがえのないスポーツです。

## スーツケース

古代の人類は、狩猟生活をするために、常に住居を移動してきました。食べ物や生活必需品などを運ぶために、木や動物の皮で大きなかばんがつけられました。これがスーツケースの始まりだと言われています。19世紀に現在のよう形のスーツケースが現れました。世界初の旅行用かばんの専門店は1854年に開業したルイ・ヴィトンだと言われています。当時はまだ馬車が主流でしたが、移動手段が、鉄道、船、飛行機と進化し、20世紀に入って海外旅行が一般化すると、スーツケースは、日常的な存在になってきました。今では、スーツケースのサイズ、色、材料もさまざまです。外見だけではありません。最近のスーツケースは、すごいです。超軽量で驚いてはいけません。GPS 機能がついたスーツケース。キックボードとスーツケースが合体した、乗って移動できるスーツケース。Bluetooth とつなげて、後ろからついてくるスーツケース。ハンドルを持てば重量がわかるスーツケース。ほんとに、スーツケースの進化には、目が離せません。

僕のお気に入り、サムソナイトのブルーのスーツケースです。いろいろな旅先での思い出を、このブルーとシェアしてきました。僕の親友と言っても過言ではありません。7年前にカナダに移民してきたときには母にパッキングをしてもらった僕も、今では自分でパッキングをするようになりました。そういう意味では、僕自身も進化しているような気がします。

去年の夏、僕は中国の田舎の馬健という町の子供たちに、英語や音楽や、歯の磨き方などを教えるボランティアに行きました。子供たちから、「お兄さん」と呼ばれ、とてもいい経験でしたが、ひとつだけ後悔がありました。それは僕のスーツケースのパッキングでした。馬健でボランティア活動を始めて5日目に、歯みがき指導のために持って行った歯ブラシを、使い切ってしまったのです。最後の1日は、あげたくてもあげる歯ブラシがなくなり、子供たちの残念そうな顔を見て、僕の心は傷みました。ブルーに入れた僕の T シャツ10枚を5枚にすれば、少なくとも、あと50本の歯ブラシが入ったはずだと思いました。

それから僕は、パッキングの仕方について、真面目に考えるようになりました。くるくると丸めて詰めるロールパック。スーツケースの両方向からどんどん服を重ねていき、最後に、はみ出した部分を折り込んで詰めるミルフィーユパック。大きく薄く広げて詰めるフラットパック。最近では、服を圧縮するための 袋や、中身を小分けするための収納バッグなども開発され、パッキングの方法も進化しています。今では、僕もパッキングの達人です。中国へ行ったときの教訓が僕に要領よくパッキングすることと、詰める物を選ぶことを教えてくれました。

パッキングには、意思決定や選択が必要です。その選択の過程は、もしかしたら、人生での選択と同じことかもしれないと、ふと思いました。自分の持てる量には、限界があります。その中で何が必要で、なにがいらぬか、自分で考えて選んでいくのが人生だと思うのです。昼ご飯になにを食べるかという選択から、どの大学を受けるかという選択まで、僕の17年間の人生で、すでにどれだけの選択をしてきたことでしょうか。これから僕の人生にやってくる数えきれない選択のために、僕は中国に持っていったスーツケースで学んだ事を忘れないように、これからもブルーと一緒に世界に羽ばたいて行きたいと思っています。

### 私の英語の勉強と声優

最初にカナダへ来た時、私は英語がとても下手でした。あまり上手に発音出来なかったり、単語も覚えられなかったり、カナダ人の先生や学生とちゃんと話せなかったり、したので、すごく大変でした。英語の発音が上手な友達もあまりなくて、相談相手もいなかったのも、自分一人で悩みを持っていました。それで、英語の勉強に自信がなくなりました。でも、カナダの大学で看護師になる為の勉強をしているので、英語が上手にならなければいけません。それは、医者や患者さんに正しい情報を伝える為です。だから、会話能力を向上させる事は看護師にとって、一番大切な事なのです。でも、上手く英語を発音出来ない私にとって、会話を上達させるのはさすがに大変でした。勉強しながら、いつも辛い思いを味わっているのですが、ずっと自信がない私を癒してくれているのは、実は、日本のアニメなのです。いいアニメを見たら、心を落ち着かせる事ができて、目標に向かう力と自信を取り戻す事ができます。それは、日本の文化と物語りが好きなだけでなく、声優に憧れてもいるからなのです。

声優とは、アニメや、ゲームや、二次元世界などのキャラクターの声を演じている人です。多くの人は声優の仕事とは「台詞を読むだけの仕事」と思っていますが、実は、声でしか演技できない声優達にとって、言語の研究を極める事はとても大切なのです。例えば、私の好きな声優はほとんど皆、東京の出身ではないので、もともとあまり正しい標準語は話せませんでした。それに、声優達はキャラクターの台詞をなるべく完璧に演出する為に、自分の方言を直すだけではなく、別の方言も習わなければなりません。だから、こんな声優達の言葉の研究の努力を知る事が、ずっと落ち込んでいた私を励ましてくれました。それから、私は声優のように自分の英語のアクセントを徐々に直していこうと思いました。

更に、声優の仕事は台詞を読むだけではなく、色々な世界を知らなければいけません。それで、歴史や、医学や、ファンタジーなどの、色々な専門用語を学ばなければなりません。難しく、覚えにくい単語もたくさんあります。でも、声優達はこのチャレンジを乗り越えて、自分の知識を増やす事に喜びを感じているのです。それを知ってから、医学の専門用語や英単語を覚える事がそれほど苦ではなくなって来ました。声優はそんな困難をポジティブな考え方で克服します。そんな素晴らしい姿勢が私にいい刺激を与えてくれました。それからは、私は更に正しいアクセントできれいな英語を話せる事を目指して、英語と看護師の勉強を頑張っています。

今では、英語を以前よりずっと上手に使う事が出来る様になりました。そして日毎に看護師になる日が近づいている事を実感しています。私はアニメを好きになって、声優という仕事について考えました。でも、その事が私の将来の仕事に影響する事と考えると事はありませんでした。たくさんの事に興味を持つ事は何時か何処かで自分の将来の役に立つと思います。ですから、皆さんも夢を追いかける時、色々な事に好奇心を広げて、頑張ってください。きっと思わぬところで役に立つと思いますよ。

### 母へのメッセージ

私は 1993 年一月十五日に生まれました。あの日は、私が母と初めて出会った日でした。そして、2013 年十二月八日。この日は、私が母とお別れした日でした。こんにちはみんなさん、私はジャクソンと申します。今日私は、亡くなった母へメッセージを届けたくて、参りました。母と別れてからの一年間、色々な嬉しいことや悲しいことがありました。

嬉しいことは、去年の春にアニメボルーシヨンのボランティアを始めたことです。アニメボルーシヨンは、バンクーバーで日本のアニメと漫画の文化を広めるために頑張っているグループです。私たちが開催するイベントの写真を取ったり、お客様を助けたり、とても面白くて楽しい体験ができています。特に、バンクーバーで毎年ある盛大なコスプレ大会では、たくさんの人に会えるし、有名なコスプレイヤーやアニメの声優さん達にも会えます。おかげで、自分のおたくサークルを広めることができます。だから、お母さんはいないけど、今の生活を精一杯しんでいます。

もう一つ嬉しいことは、僕の職場の先輩だったダイガ先輩が香港から遊びに来てくれました。ダイガ先輩はカナダに来る半年前に脳の病にあってしまいました。手術をして元気になりましたが、左腕と足は完璧に回復ができないそうです。それなのに、ダイガ先輩は僕に会いに来てくれました。一緒にバンクーバーを観光したり、僕の悩みを聞いてくれたり、幸せな気持ちになりました。『僕は一人ぼっちじゃない』って、実感しました。家族や友達みんなが、僕をいつも支えてくれているんだと感じました。みんなに感謝しています。

感謝と言えば、ブライトおじさんです。ブライトおじさんは、僕が小さいころから尊敬していた母の親友です。仕事探しを手伝ってくれたり、日本に住んでいたことがあるので、日本語を教えてくれたりしました。お父さんがいない僕にとって、ブライトおじさんは父のような存在です。でも三ヶ月前、ブライトおじさんは亡くなってしまいました。その時、自分に何度も同じ質問をしました。「何で？何でおじさんが死ななきゃいけないの？」まだおじさんに恩返しをしていないし、謝りたいことも山ほどあるんです。でも今更何を言っても無駄で、後悔しかありません。でも、この痛みを知ったからこそ、僕はもう後悔する人生を生きたくはありません。少なくとも、今は周りの人への感謝をいつも忘れずに、今を大事に生きています。

人生は大変だし、辛い事ばかりだし、あきらめたいと思うこともあります。でも、お母さんのことを思い出すと、『頑張ろう』と思えます。お母さんが生きていた時、僕はお母さんをごっかりさせてばかりでした。でも、お母さんはいつも『僕に幸せになってほしい』と願っていました。だから、僕は自分の道を切り開いて、後悔しない人生を進んでいきたいです。私はここで今まで僕を支えてくれたみんな、そして天国にいる最愛のお母さんに誓います。

僕は、幸せになるんだ！

**私たちは自分の事を考えなければいけません**

こんにちはみなさん。私、ピチャダと申します。タイで生まれて、六さいの時バンクーバーに来ました。私の家族はぶっきょうをよくしんじていて、「自分の事を考えてはいけません。いつもほかの人の事を考えなければいけません」と言っていました。だからほかの人を手伝ってあげて、よろこんでもらった時、私は幸せだと思いました。

私の家族はお金が幸せを持って来て、生活をかんたんにしてくれると言っていました。だから九さいの時、私は歯医者になろうと思いました。でも、高校生の時、十年も大学と大学院に行きたくなかったし、歯医者になりたくなくなりました。それはただ子供の夢でした。自分は頭がそんなによくないとわかりましたから。それに、歯医者はたくさんお金を貰えますが、毎日ほかの人の口の中を見たくありません。私は本当は歯医者の仕事が好きじゃなかったんです。後で、父は「どんな仕事をしたい？」とよく聞きました。でも、その時何も仕事の経験がありませんでしたから、本当にわかりませんでした。そして、大学に入って先学期、友達にスポーツをするのが好きだったら、たいいくがくを勉強したほうが良いと言ってくれました。私は、子供の時からスポーツが大好きでほかの人を手伝う仕事をしたいですから、セラピーの仕事がしたいと思いました。はじめは父がはんたいしましたがあきらめませんでした。両親に「これは自分の事だから、自分がしたい事をしてほしい」と言いました。絶対にあきらめませんでしたから、両親は私の気持ちをわかってくれました。

みなさん、ほかの人に「はい」と言うのと「いいえ」と言うのとどちらのほうがかんたんだと思いますか。よく私たちはまだ勇気がないし、ほかの人の気持ちをきずつけないし、「いいえ」と言えません。子供は言えますがおとなは言えません。でも私たちは自分で自分のために話さなければいけません。したいことを言わないなら、ほかの人が私たちの人生をハイジャックしてしまうし、自由に生きているほかの人の幸せをうらやましいと思ってしまいます。ほかの人は私たちに色々言いますが、私たちは自分の事は自分で決めなければいけません。両親も友だちもほかの人もだれもいっしょに死んでくれません。私たちはひとりで死にます。私たちの人生は1回だけですから、自分を一番愛さなければいけません。ほかの人の人生じゃありません。私たちは自分の人生を生きましょう。

### 一期一会

去年の夏、私は一人で日本に七週間旅行しました。広島から出発して、東京までずっと東に行きました。奈良にいた時、ゲストハウスの女将さんと好きな映画について話しました。私は、「フォレスト・ガンプが好きです」と言いました。その映画の日本語のタイトルを知っているかと女将さんは聞きました。私は、頭を横に振りました。

女将さんは、ナプキンの上に「一期一会」の漢字を書いて、意味を説明してくれました。それを初めて聞きました。この四字熟語は禅宗に由来して、茶道に関連がありました。どの茶会でも一生に一度のものとして心得て、主客ともに誠意を尽くすべきことをいいます。一生に一度なので、あらゆる出会いは特別で、大切です。「今、私たちは一期一会をしていますよ。」と女将さんが言っていました。

これは面白い考えだと思います。この話を聞く前に、私はこれについて考えたことがありませんでした。中国で子供の頃から、家族や友人が集まる最後に、両親はいつも「zai jian」を言わせました。意味は「もう一度、会う」です。カナダで、友達とメッセージをしている時、「ttyl -- Talk to You Later」を書きます。「後であなたと話す」事です。私たちはいつも次の出会いを願ってみます。でも、どうして今の出会いをもっと大切にできませんか。

奈良の後、たくさんの町に行きました。地元民の家でホームステイをしたり、太平洋のそばの民宿でファームステイをしたりしました。私はあらゆる出会いが大切な思い出です。たくさんの美しい思い出があって、多くの一期一会の体験をしました。しかし、一番忘れられないのは、私の日本での最後の夜です

広島から、カナダへの飛行機は次の朝でしたが、広島駅についた時、最後の空港バスに乗り遅れてしまいました。近くに、24時間のレストランとインタナショナルATMがありませんでした。空港に行く唯一の代わりの方法は、私が持っていたお金の三倍がかかります。近くの婦人警官に片言の日本語で状況を説明しました。そして、婦警は「ついてきてください」と私に言いました。それから、彼女はマンガカフェに私を連れて行って、自分の財布からお金を引き抜いて、私のナイトパークの料金を払いました。そして、彼女の名前と電話番号を聞いた時、彼女は微笑んで、「大丈夫ですよ」と言って、出ました。最悪の夜は、一番忘れられないの夜になりました。たぶん、二度とその婦警に会うことはないです。でも、彼女の親切をずっと覚えます。

バンクーバーに帰った五ヵ月後、もっとボランティアをして、もっと学校活動に参加して、もっと人々と交流しています。私たちはこの瞬間を生きて、あらゆる出会いを大切にしたら、自分と他の人の生活をより良くできると思います。

今、財布の中に、まだ奈良からそのナプキンがあります。今日、ここで、皆さんと会えたこと、これも、一期一会です。

ご静聴ありがとうございました。

## 私の知っている成功方法

皆さんこんにちは。

世の中の人は何か夢を決めてそれを叶えるために毎日努力しています。そして、自分の夢を実現した人は成功したといえます。私も二十年ぐらい前カナダに着いた時、一つの夢を持っていました。それはカナダの大学に入って英語を勉強することでした。私は今 UBC で英語を専攻しているので、とても嬉しいです。年が40歳にもなって大学生になるとそれも成功といえるかと思われるかもしれませんが、私はその目標が達成できたために今は次の夢に向かって進めるようになりました。その目標はお金持ちになることです。

お金持ちになりたいと思っている人は、実は、どこにもいます。では、どうしたらその目標が達成できるでしょうか。私はいくつか提案があります。一つは「早起きは三文の徳」という諺です。いいアドバイスですね。皆さんは豊臣秀吉の話をしっていらっしゃいますよね。彼は毎朝主人が外に出てくる前に主人のぞうりを自分の胸にだいてそれを温かくしておいていたのです。それで、彼は貧しい農民の子供から日本の有名な将軍になれたんです。朝早く起きる習慣が成功のためどんなに助かるかといういい例ですよ。

もう一つのアイデアは私のおじからもりました。お金を全然持たないで一人でカナダに来て今は自分の会社を持っているおじさんは5ドルとか10ドルの少ないお金も貯金することの大事さを教えてくれました。

また、私がある日もらった、フェイスブックのメッセージは「積極的な性格は幸運を引き寄せる」というものでした。例えば、街中でハッとするような美女に出会ったら自分から声をかけなければその美女と知り合いになれる可能性はほぼゼロに等しいが、積極的に声をかける。そうすればすくなくとも美女と知り合いになれる可能性が出てくるのです。積極的な態度が仕事での昇給、昇進、満足感にも影響するというのは本当ですよ。

それから、もう一つ教訓があります。私が夏の間セールス会社に働いていた時よく聞かされたセールストレーニングの一つですが、そのトレーナーは、私たちは会社に何か価値を与えなければならないといっていました。私たちが会社のために何時間上げたのかじゃなくて、どんな価値を提供したのかを考えなさいということです。他の人の必要なことを考えてそれを満足させてあげるのが一番賢い成功方法だという論理に私も同意です。皆さんもおかねを払って本当によかったと思う時は相手が自分を本当に考えてくれたとき、何かで心を感動させてくれたとき、また、心からのサービスをしてくれたときじゃないんですか。毎朝自分の主人のぞうりを胸に抱いていた豊臣秀吉、やはり彼が成功したのは朝早く起きることだけじゃなくて自分の主人をどうやって感動させようかいつも考えていたからではないでしょうか。私はこれから成功のために人を感動させることを一番の目標にして生きて行きたいと思います。

これで終わりです。どうもありがとうございました。

## 100個の単語の力

皆さんはいくつもの言葉を話せますか。二つ？三つ？それとも一つですか？

いつからか分かりませんがたくさん言葉を習って話すのが普通になりました。たぶんグローバル化のせいでしょう。でも、外国語はどのくらい完璧に話さないといけないのでしょうか。

最近、複数の言葉を話すことで、就職が有利になることも一般的です。特に韓国では第二言語を完璧にできるのが普通になりました。だから、二つの言葉を完璧に話せないで見下されることもあります。UBCでもそうです。私が勉強している学科ではグループワークが多いです。もちろん英語が下手な学生も大勢います。だからといって彼らが意見がないというわけではありません。でも、ほとんどの学生たちが英語が上手じゃないとその人を無視します。そういう態度を見ていると、最初に私たちがどうして英語や外国語を習うようになったのかを今の私たちが忘れてしまっているのではないかと思います。

私たちは言葉をビジネスや就職のためだけではなく、人々がお互いに違う文化を理解してコミュニケーションをするために習い始めたはずで、ただの簡単な言葉だけでもお互いに伝えたいことは伝えられます。私が小学校五年生だった時の話です。その時、初めて日本に行って、初めて一人で二週間日本人の家でホームステイしました。ホームステイ先の家族と私の中に共通する言葉がなかったので初めてその家族に会う時、とても怖かったです。でも、それはただの心配にすぎませんでした。その時の私は100個ぐらいの単語しか知りませんでした。それでも私が頑張っていることで、その家族の皆さんは喜んでくれました。お互いの努力で、簡単な言葉を使いながらも、帰るころにはずいぶん長く話せるようになりました。実は、去年の冬休みに日本に行ってその家族に会いました。今は日本語が十年前よりできるようになったから、もっと色々な話しができました。でも、お互いを理解したいと考えた最初の気持ちちはいつもそこにあるということを感じました。そうです。わずかな語彙だけでも人と人を繋げる大きなパワーがあるということが分かったんです。

世の中には7000以上の言葉があります。ということは、自分と違う言葉を話す人に会う可能性のほうが高いということになります。その人たちの言葉を全部完璧に理解するのは無理だと思います。でも、簡単な言葉から始めることはできると思います。完璧ではなくてもいいのではないのでしょうか。どのくらい上手に話せるかというよりも、まず心を開くことのほうがもっともっと大切だと私は思います。

皆さんの前でこんなふうに日本語でスピーチができるようになってとても嬉しいです。でも、その一方で簡単な言葉の力をいつのまにか忘れてしまうのではないかと思います。私は、五年生だった時、初めて通じた時のあの嬉しさをいつまでも失いたくありません。

## 女性が輝く日本へ

私は、日本が大好きで将来日本で働きたいと思っています。しかし、たくさんの女友達に「それは絶対にやめたほうがいいよ！女は色んなことを制限されるし」と反対されました。確かに、日本人女性にとって、労働環境は厳しいと聞いていましたが、私はそれほど気にしていませんでした。しかし、先日、ある友達が、「結婚したら、妻には仕事をやめて育児に専念してほしい」と言うのを聞いてショックを受けました。未だに私の祖母の時代の考えを持っている若い人が本当にいるのだと思いました。そして、初めて日本社会がどれだけ女性にとって不公平なのかを切実に感じました。

私はずっとキャリアと子育ての両立は普通だと思ってきました。私が育った台湾では、女性も男性と同じように働いている家庭がたくさんあるからです。台湾の女性がキャリアと家庭を両立できるのには、労働環境と文化的理由があります。台湾の労働時間は日本より短く、大抵夕方6時までには終わります。更に、台湾には保育園やアフタースクール制度が完備されています。祖父母が子供の面倒をみってくれるという文化もあります。ですから、子供がいる女性にとっても働きやすい環境なのです。私は、幼い頃から母が職場で活躍する姿を見て、自分も将来母のようになりたいと思っていました。

それでは、なぜ日本では女性がキャリアと家庭を両立できないのでしょうか。最も大きな原因は、「女性は仕事より家で夫を支えるべきだ」という強い考えが残っているからだだと思います。例えば、日本のドラマでは、仕事を頑張っている女性の恋愛状況に大体3つのパターンがあります。「ずっと独身で男に興味がない」、「結婚できない」また「彼や夫と別れる」という設定です。逆に、仕事を頑張る男性の場合には、ドラマ「半沢直樹」のように、必ず妻が家で夫を支えています。社会にこのようなステレオタイプが根強く存在していますから、現在の女性労働者にとって子育ては難しく、また女性に大事な任務を与えない会社も多いです。このような悪循環が日本の女性が働きにくい環境を作っているのです。

日本は変われるでしょうか？私は、変われると信じています。ただし、役職を女性に与えるという形だけの変化ではなく、人々の考えも変えなければなりません。考えを変えるには、教育が必要です。私は子供の頃から学校や周りの大人に、男女平等という観念を教わってきましたから、自然と女性がキャリアと家庭を両立することが普通だと思うようになりました。特に、小学生の授業でも、男女平等に関するアクティビティをしたことがまだ印象に残っています。ですから、日本でもこのような教育を取り入れることが大切だと思います。

また、最近の若い女性たちの考えはどんどん進んでいます。結婚して子供ができて仕事も続けたいと考える人も多く、私の友人にも将来の夢に向かって努力している女性がたくさんいます。ですから、私は一人の女性として日本の女性たちを応援したいと思います。今は安倍政権も女性が輝く日本へというスローガンをかかげており、女性が声をあげるのに良いチャンスです。そこで、私たちのような女性外国人も日本で自分の文化や考えを発信することで、日本の女性や男性を刺激し、日本社会に少しでも影響を与えられると思います。

女性の皆さん:ステレオタイプに負けずに自分の夢や希望をどんどん口に出しましょう！

男性の皆さん:ステレオタイプに縛られずにまずは子育ても家事もやってみましょう！職場で頑張っている女性がいたら、背中を押してあげましょう。

本当の男女平等は男女が力を合わせて作るものだと思います。そして、私たち若い世代ならそれが出来ると信じています。

## 二つの世界は、繋がる

皆さんは「念力」という言葉を聞いたときに何を思い浮かべるでしょうか？多くの方は念力を使い、スプーンを曲げている、サングラスをかけた怪しい見た目のマジシャンを思い浮かべるかもしれません。私は幼いころに念力を使うポケモンを見て、超能力に強く魅了されました。大人になった今、人は念力のような、空を飛ぶことと同じぐらい非現実的なことを考える私を、幼稚と思うかもしれません。しかし、私は人間の精神力には、念力と同等か、もしくはそれ以上の特別な力があると信じています。例えば、私は昔あるイベントに参加しました。懸賞がスターバックスのマグやカードだったと知った時、私は全身全霊をかけて一生懸命祈りました。その結果、驚いたことに見事懸賞を当てることができたのです。私は単に運が良かっただけなのでしょう？しかし、私は人の心理状況は確実に仕事の効率や私たちの脳にある感情の処理能力に大きく関わっていると思います。

この前、私の友達がたまたまダン・ブラウンの「ザ・ロスト・シンボル」という本を読んでいたもので、詳しい内容を教えてくれました。彼女が教えてくれたある実験の話が、私の念力に対する見解を変えました。プリンストン大学で数千人の人達が呼ばれ、二つの物体の距離を念力を使って縮もうとする実験が行われたました。驚いたことに、わずかながら二つの物体の距離は縮んだそうです。この実験の結果に何か意味があるとするれば、それは我々の意識が現実を与える影響は科学的には微量ということでしょう。しかし、私が皆さんに一番注目してほしいことは念じるという行動が持つ力です。私は大人数の人達があるものに意識を集中したら現実に影響を与えられると信じています。これが事実ならば、私達人類は共により素晴らしい世界を作ることができるのではないのでしょうか。たとえ少人数だろうと変わりません。ライト兄弟が空を飛ぶということに信じたことは、彼らの偉大な発明に何の貢献もなかったと言い切れるのでしょうか？具体的な繋がりはとても弱いですが、精神世界と現実世界は無関係ではないのです。

現実の出来事を見ても、意識の力は明確です。「ニューヨークの人々」という名前で活動をしている写真家をご存知でしょうか？彼はニューヨークで毎日、どこにでもいるような通行人の全身像を取り続けています。ある日、そんな彼がアメリカのブランズヴィルという犯行率の高いまちで、バイダル君に、「あなたにとって、誰が一番影響力をもっていますか？」と聞きました。一目見ただけでは、犯罪に手を犯しているような彼ですが、彼は彼の校長先生がとても素晴らしい人間なのに、学校の資金不足で苦労をしているという感動的な話をしました。「ニューヨークの人々」に乗ったバイダル君の写真はフェイスブックを通して3万人以上の人に観覧され、たった一週間でその学校は100万ドル以上もの資金を集めたそうです。

これもたまたま運のおかげで資金が集まったと言い切れるのでしょうか？私はそうは思いません。この偉大な成果は一人の男の子の思いから始まったのです。

これらの科学的な例と、現実の例が示すように、一人の人間の思いには無限大の可能性が秘められているのです。なので、皆さんはこれからどんなにも不愉快な事が起こりようとも、必ず積極的な態度を保ってください。あなたが持っている「念力」の力で、想像以上の結果を出せるかもしれません。

### 理想の建築材料:木材

僕は今、UBCで木材について様々なことを学んでいます。少しでも皆さんに木材の素晴らしさを知って貰いたく、木材をテーマに選びました。J-GRADEは、日本へ輸出するために特別に作られたカナダの最高グレードの木材です。カナダの木材は、日本全国の木造住宅や施設、神社などで幅広く使用されています。神社に関して言えば、材料の80%は、カナダヒノキが使用されていることを、みなさんご存知ですか？日本とカナダには木材に関して長い歴史もあります。関東大震災の後、カナダは緊急に日本に木材を輸出しました。その後も、日本の復興に大きな支援をしています。

木材は、人に優しいです。木材は呼吸をしながら、湿度が高いときは湿気を吸い込み、逆に乾燥しているときは水分を放出します。ですから、蒸し暑い夏でも、乾燥する冬でも、木がもつ様々な特性により、木の家で暮らすと健康で長生きできると言われています。木材は環境にも優しいです。建築家のマイケル・グリーン氏は「木材建築による二酸化炭素の排出量は、鉄やコンクリートによる建築よりかなり少ない」と木材の環境効果を語っています。木が二酸化炭素を吸収するのと同じように木造建築物も二酸化炭素を取り入れる事ができます。ですから、木材は最も持続性があり、環境にも優しいので建築に適しています。でも、木造建築物は火事で燃えてしまう、と思う人もいるかもしれません。確かに、木は燃えますが、太い木材は表面は燃えても芯まで燃えることはありません。鉄はそれ自体は燃えませんが、800度くらいでグニャっと曲がってしまうので、建物が早く崩れ落ちてしまいます。また、加工技術が進んだおかげで、木材の表面に特殊なコーティングができ、火事になっても火が燃え広がらないようにすることも可能です。

最後に、木材の強さについてお話します。最近注目されているCLTパネル。これは、木材を縦と横に交互に重ねた分厚いパネルです。CLTパネルは断熱性に優れ、地震にも強く、巨大なパネルとして利用できるため、建築家にとって最も理想的な建材であると言われています。工場でCLTパネルの製造が行われるため、現場での施工時間が少なくなります。ヨーロッパでは4名の技術者がCLT工法を使って9週間で9階建て集合住宅を完成しました。コンクリート造の場合と比べると20週間分の工期を短縮できたこととなります。ロンドンには9階建ての木造高層マンションができ、私たちが住んでいるバンクーバーでも30階建ての木造高層ビルを建てる計画が進んでいますし、このUBCでもCLTパネルで建物を建てる計画があります。CLTパネル工法はこれからの建築物木造化の限界を押し広げ、大型施設や中層ビルなど新たな用途での木材需要を飛躍的に拡大できる可能性を秘めています。

私たちが住んでいるブリティッシュコロンビア州は、世界で最も豊かな森林があり、それを活用するための熟練技術者、建築家、加工職人が大勢いますし、世界的に有名な木材企業がたくさんあります。バンクーバーには様々な日本の住宅企業の工場もあります。僕が大学1年生の時に参加したカナダ木材企業の講演会である日本の木材会社の社長さんは、こう語りました「木と人のよりよい関係を見つめ、木の優しさをそのままに、より強く。木の温かさをそのままに、より美しく。」この言葉がずっと僕の信念であり卒業後の目標でもあります。僕は、将来、大学で学んだ知識と、積み重ねてきた経験、そして僕の木材に対する情熱で、日本とカナダの木材のかけ橋として、頑張っていきたいと思います。

ご清聴、ありがとうございました。

## 文化と言葉の繋がり

「あの、すみません、新宿に行きたいんですが、ここで乗り換えるか、品川に行って乗り換えるか、よく分からなくて教えていただけませんか？」

「…あの…ゴー・ダウン…アンド…ターン・レフト」

「すみません、日本語をお願いします」

「ああ、ああ、すみません。ゴー・ダウン…下、シーター」

日本に留学していた時、こういう外国人対応をされることは多く、ちょっとびっくりしました。日本では、毎日のようにグローバル社会という言葉をよく耳にしました。グローバル社会に向けて、日本人の英語熱は高まっていて、留学中は英語教師のバイトをしょっちゅう頼まれました。このグローバル社会で生き延びるには英語は絶対に必要だと言われていています。逆に、カナダやアメリカなどの英語圏では外国語力はあまり求められていません。それでは、他の言語はどうなるのでしょうか？

日本語を勉強する前には、外国語と英語の違いは単語と語順だけだと思っていましたが、本当はそうではありません。言語はただのコミュニケーションの道具ではなく、ある国の人達の文化と考え方を反映するものです。例えば日本語の場合は敬語があります。日本人は上下関係を大事にしますから、敬語はその文化的な面をよく表すのではないかと思います。

それから、日本で、寿司屋に行くと、「ライオン、ハマチ好き？」と聞かれて、ハマチは何の魚か、辞書で調べたのに、英語でも意味が分かりませんでした。でも日本人はそれぞれの魚の名前とアジト特徴をよく知っています。ブリ、カンパチ、えんがわ、同じマグロでも、中トロと大トロ。我々カナダ人も魚を多く消費しますが、日本人ほど魚に関する深い文化はないと思います。文化は言葉に深く影響していることがわかると思います。

他にも、A thirst for knowledge、知識欲、To make a success out of ones life、出世、色々な英語を日本語でたった一言で表現できます。日本語より英語の単語数が少ないですが、多様な言語の表現を均一化してしまっています。そして、もったいないという言葉。英語に訳したら、what a waste ですが、日本語のもったいないは、実は仏教から生まれた言葉で、「物の価値を十分に活かさきれておらず、無駄になっている」状態を戒める言葉だと、日本で教わりました。これは日本人の精神論とも言えるものです。Waste には、考え方や戒めまでは含まれていません。もったいないという言葉が世界に広まって他の国の人たちが使い始めたら、その国の人たちの考え方に影響を与えるのではないかと考えています。

言語は人間の特徴であり、考え方を反映するものであり、文化そのものです。もし世界の皆は自分の言語を捨てて

英語で喋ったら、世界の何千カ国語がなくなるだけでなく、特徴と考え方と文化が失われることになります。均一化された社会は、社会として成熟したとは言えないでしょう。逆に、外国語を勉強したら色々な国の道徳と価値観の理解が深まり、それによって人類社会はすごく成長できるのではないのでしょうか。

グローバル社会では、英語が話せるだけの人が求められているのではないと思います。世界の様々な国の言葉、そして文化や価値観を知っている人こそが、真の国際人と言えるのではないのでしょうか。そして多様な言葉・文化・価値観を認め合う社会こそ、真のグローバル社会なのではないのでしょうか。

## 皇室について

小さな目、四角い顔、優しい笑顔、ちょっと背が低い男の人。皆さんは、この男の人をご存知ですか。もっとヒントをあげます。彼は昭和 8 年に生まれ、妻の名前は美智子で、魚が大好きな 81 歳の男の人です。そうです。皆さんの思った通り、天皇陛下です。このスピーチのテーマは日本の皇室についてです。

世界のロイヤルファミリーの中で、日本の皇室の歴史が一番長いということをみなさんご存知でしたか。日本最古の史書「日本書紀」によると、日本の皇室は神の子孫であり、初代の神武天皇から今まで 125 代も続いています。約 2500 年も続いている王朝は、現在、日本以外にはありません。どうしてこんなに長く続けることができたのか調べてみますと、2つの理由がわかりました。まず、日本の皇室は男系継承を続けてきたということです。男系を続けるためのいろいろな努力もあったようです。男系は初代の天皇の血を引くという意味で、生物学的にも大切なことだと知りました。もう一つの理由は、皇室が国民から守られ、尊敬されてきたということです。どんな権力者も天皇の地位を奪おうと考えたことはありませんでした。歴代の天皇が一番長く住んだ京都御所には、堀も塀もありません。その必要がないのです。天皇は神様として祀られながら、実際は、国民の幸せを願う平和主義者で、とても質素な生活をしてきました。そういう理由で国民に愛され続けたのだと思います。

次に菊花紋章について話します。日本の皇室と言えば、菊花紋章が私の頭の中に浮かびます。みなさんは、菊は 奈良時代に中国から伝来したことをご存知ですか。その時は、邪気をはらって長生きする薬として伝わったようです。また、菊の形が太陽の形に似ていることから、天照大神の信仰とも結びついて 天皇家の象徴となりました。菊花紋章は、日本人のパスポート、日本大使館の玄関、国会議員のバッジなどにも使われています。菊には長命、高貴の意味があります。皇室にはそういう願いも込められているのではないかと私は思います。

皇室を支えるために1年間に200億円かかります。その中で皇族の方々の生活費の合計は6億円です。他には、外国御訪問や、国賓を迎えるための宮廷費や宮内庁費というのがあり、たくさんの予算が必要です。東宮家には男の親王がいらっしゃらないことや、皇太子の奥様の雅子妃殿下が精神のご病気で御公務を長らくお休みになっておられること、現在の日本の皇室には、他の国にはない、いろいろな問題もあるようです。でも国民は温かく見守っています。

現在、日本の漫画やアニメなどのポップ文化は世界中で知られています。もちろん、それも日本独特の文化です。でも、私は日本の現代文化だけでなく、皇室についても世界に知ってもらいたいと思うのです。さらには、皇室にあまり興味のない日本人にも、もっと日本の皇室への自信と尊敬を持って欲しいと思います。日本の皇室は世界に誇れるものだと思うからです。テレビで拝見する皇室の方々は、なんと上品で美しい日本語をお話になるのでしょうか。被災地を訪問し、避難中の人々を励ますお姿、功績を挙げた人々を皇居にご招待してねぎらうお姿、海外の王室や大使を出迎えるお姿。どんなシーンでも、天皇陛下と皇后陛下は高貴なオーラに包まれておられ、日本人でない私が見ていても、見とれてしまう、というより涙が出そうになってしまいます。どうかみなさん、日本の皇室をもっともっと知ってください。愛してください。そして永遠に皇室を続けてください。